東京学芸大学　50001400　現代社会と日本語
2020/12/17　南浦涼介

現代社会と日本語

第9回

ユニット２　多文化社会を見すえて どのような言語のありかたがあるかを考える②
日本語は誰のものか？　リンガフランカと母語

授業は8:50からです。
コメントスクリーンなどの用意をお願いします

前回の最後に提起されたこと

情報１　日支合弁語（協和語、満州ピジン）

満州で日本人植民者と現地の満州在住者の間で交わされた言葉。

中谷鹿二『日支合弁語から正しき支那語へ』

ター デ キヌテヌライユー
他的今天来有か？

「正しき中国語」「正しき日本語」
でなければだめだったのか？

通じ合っているけれども…「正しさ」とは？

今の時代にも、こういうことってないか？

導入　言語系教育の「ふしぎ」

国語教育

なぜ国語教育には、日本文学、中国古典学は
あるのに
英米文学やアジア文学はないのか？

日本語教育

なぜ
「日本人じゃない日本語の先生」
より
「日本人の日本語の先生」
に教えてもらいたがるのか？

外国語教育

導入　言語系教育の「ふしぎ」

国語教育

なぜ国語教育には、日本文学、中国古典学は
あるのに
英米文学やアジア文学はないのか？

母語への深い感覚の形成

母語の背景文化の理解

日本語教育

なぜ「日本人じゃない日本語の先生」
より
「日本人の日本語の先生」
に教えてもらいたがるのか？

日本人との交流のために

日本社会への参加のために

日本語には
そんな発想は
ないの？

母語話者に対して母語をより正確に
非母語話者に対して母語話者が母語をより正確に

外国語教育

なぜフィリピン人の先生より
アメリカ人やイギリス人の先生のほうがいいと思うのか？

?

アメリカ人やイギリス人との交流のために

アメリカやイギリス社会への参加のために

英語はもはや
「国」枠の言語ではない

見る　日本語には英語のような「国」枠を越えた発想はないのだろうか？
（「国」枠：○○国の言葉＝○○語＝○○国の人」）

主人公　忠男
（岸谷五朗）

在日コリアン２世

ヒロイン　コニー
（ルビー・モレノ）

フィリピンから出稼ぎ労働

見る

日本語には英語のような「国」枠を越えた発想はないのだろうか？
（「国」枠：○○国の言葉＝○○語＝○○国の人」）

主人公　姜 忠男
（岸谷五朗）

在日コリアン２世

ヒロイン　コニー
（ルビー・モレノ）

フィリピンから出稼ぎ労働

忠男の「母語」は何だろうか。「母国語」は何だろうか。

忠男とコニーの日本語のやりとりは
「正しくない日本語による正しくない会話」なのだろうか？

概念　「リンガフランカ」(Lingua Franca) としての言語

共通の母語をもたない集団内で意思疎通に使われる言語

「ピジン」のような複数の言語の混淆によって成立することもあるし，ある地域で政治的・経済的に大きな影響力をもつ言語がリンガフランカとなる場合もある

A　日本列島の中で、土着の縄文人と、渡来系の弥生人はどのようにやりとりをしたのか？

B　日明貿易や日宋貿易で使われた日本の港で、中国の商人と日本の商人の間でどのように商売をしたのか？

C　第二次世界大戦後、米軍の占領軍を相手にした私娼（パンパン）はどのように意思疎通をしたのか？

現在も「リンガフランカ」はある？

漢文

英語

日本での留学生同士の会話

科学学会や外資系企業などでの「英語」

国際学会が開かれた。たくさんの分科会が開催され、世界中から多数の研究者が集まる。非英語圏からの参加も当然多数ある。初日だけは皆が一同に会し、学会の開催宣言が行われる。そこでは、この分野の大御所が、基調講演を行うのが通例である。
今回、その役は、スイスの重鎮学者によって行われることになっていた。彼は、威厳に満ちた重々しい足取りでゆっくりと壇上に上がり、演台の前に立った。そして開口一番、彼はこう言ったのである。

「科学の世界の公用語は、皆さん、英語であると当然のようにお考えになっていると思いますが、実は違います」

　一体、何を言い出すのか。会場に集まった人々は驚いて彼の顔を注視した。彼自身は、ドイツ系スイス人であり、その英語はかなり強いドイツなまり、お世辞にも流暢な英語とは言えないものだった。皆は、彼が次になんと言うか息を呑んで待った。まさか、彼の母語であるドイツ語だ、などと言うのではないだろうな。かつてドイツはすべての科学分野で世界をリードしていた黄金の一時期があったことは確かだが、いまさらそれは。

　果たして、彼はこう言った。

「科学の世界の公用語、へたな英語（プア・イングリッシュ）です。どうかこの会期中、あらゆる人が進んで議論に参加されることを望みます」

　会場からは大きな笑いとそして拍手が沸き起こった。このキーノート・アドレスに勇気付けられたおかげだろうか、この学会では、どのセッションでも、アジアから参加した非英語民の活発な発信が目立った。

福岡伸一『できそこないの男たち』pp.20-21

Q4 「外国語を学ぶ」は「母語話者」をめざすべき？

英語を学ぶときもそうだし，日本語を学ぶ人に対しても？

従来の言語教育がめざしてきたもの

accurately
（正確であること）

fluency
（流暢であること）

complexity
（複雑であること）

多様な話者の「リンガ・フランカ」としてだと？

日本語は「リンガフランカ」になれるか？
「国の言葉」から「私たちをつなぐ共通語」へ

命題33　英語は，近年「国」「人」「言語」の結びつきを離れ「World Englishes」「リンガフランカとしての英語」になりつつある。

命題34　日本語は「国」「人」「言語」を国民国家の枠で結びつけてしまいやすい。

命題35　しかし，日本語でも在日外国人の言語をはじめ「国」「人」「言語」で結べないことも多くある。「リンガフランカとしての日本語」も存在する。

命題36　リンガフランカとしての言語は「正確」「流暢」「複雑」ではない方向が重要。

命題37　「日本語は誰のものか？」という問いをもって「日本語は日本人のもの」「外国人はそれを２つめの言葉として学ぶもの」という前提を考えなおしていくことも重要かも知れない。